

ファーストフードと大学生活との 関連：日米比較研究

ジョヴォン・ハッチンス
ジェシカ・ネギン

アドバイザー：
齋藤-アボット佳子
関根繁子

春学期2017

概要

1. 研究の重要性
2. 研究質問
3. 研究背景:
 - a. ファーストフードの定義
 - b. ファーストフードレストランの歴史
 - c. ファーストフードに対する文化と認識
 - d. 消費者の食に対する価値観
 - e. ファーストフードの消費率
 - f. 人気のあるファーストフードレストラン
 - g. ファーストフードの栄養価
 - h. ファーストフードを食べる心理的な要因
 - i. メディアと広告
4. 研究方法
5. 調査結果
6. 結論
7. 研究の限界点と将来の研究
8. 参考文献
9. 感謝の意

研究の重要性

- **日本**と**アメリカ**では、ファーストフードは大学生の食生活には不可欠なものである。
- **日本**と**アメリカ**では同じようなファーストフードがあるが、アメリカのファーストフードの方が健康的なイメージが少ない。
- 私達は日本とアメリカの大学生がどのようにファーストフードについてみているか、またファーストフードが大学生の日常生活にどのように影響を与えているかを知りたい。

研究質問

1. 日米の大学生はどのようにファーストフードを観ているのか。
2. ファーストフードは日米の大学生の食生活とダイエットにどのように影響しているか。

研究背景の概要

- a. ファーストフードの定義
- b. ファーストフードレストランの歴史
- c. ファーストフードに対する文化と認識
- d. 消費者の食に対する価値観
- e. ファーストフードの消費率
- f. 人気のあるファーストフードレストラン
- g. ファーストフードの栄養価
- h. ファーストフードを食べる心理的な要因：
 - ストレス
 - 意思決定疲労
- i. メディアと広告：
 - マクドナルド(日本)
 - タコベル(アメリカ)
 - マクドナルド(日本)

ファーストフードの定義



様々なファーストフードのロゴ

- 迅速に準備して提供できる食べ物
- 「ファーストフードレストラン」として分類された食べ物

ファーストフードレストランの歴史

アメリカ

- アメリカの最初のオートマツ
1902
(<http://maxsielaff.de/>)
- A&W
1919
(http://www.awrootbeer.com/aw_history.php)
- クリスピークリームドーナツ
1937
(<https://www.krispykreme.com/about/Our-Story>)
- マクドナルド
1948
(Skrabec, 2012)

日本

- 吉野家
1958
(<https://www.yoshinoya.com/>)
- A&W
1963
(Crago, 2015)
- KFC、ドムドムハンバーガー、ダンキンドーナツ
1970 (<http://japan.kfc.co.jp/company/history.html>),
(http://www.orangefoodcourt.co.jp/domdom/dom_index.html),
(Palmer)
- マクドナルド
1971
(mcdonalds.co.jp)

アメリカのファーストフード産業は早くから発達した。戦後アメリカが日本を占領し、日本のファーストフード産業も影響された。アメリカ人の典型的な食事には砂糖が多いが、日本人の典型的な食事にはたくさん野菜が含まれる。

ファーストフードに対する文化と認識

アメリカ	日本
1950年代にファーストフードは文化として社会に根付いてきた	1960年代にファーストフードは文化として社会に根付いてきた
ファーストフードはアメリカの発明と考えている	世代間格差： 年上の世代 → ファーストフードは外国ものだ 若い世代 → ファーストフードは日本ものだ
アメリカの食生活はファーストフードによって変化を遂げ、現在では最大の産業の一つとなった	利便性とすぐに得られる満足感が社会的価値観に大きな変化を起こした

消費者の食に対する価値観

アメリカ	日本
1. 味	1. 気分
2. 価格	2. 安全
3. 栄養	3. 体重管理
4. 便利さ	4. 便利さ
5. 体重管理	5. 価格

消費者のニーズや欲求は所得とともに変化する傾向がある
つまり、大学生には安価なファーストフードが魅力的

(Lavoie, 1994, as cited in Jussaume & Higgins, 1998)
(Glanz et. al., 1998)
(Asakawa & Okano, 2013)

ファーストフードの消費率

1週間に1回ファーストフードを食べる人の割合



アメリカ人は日本人に比べてより頻繁にファーストフードを食べる

(Japan - average fast food consumption per week, 2016)
(Gallup, 2013)

人気のあるファーストフードのレストラン

アメリカ	日本
1. Chick-fil-A 	1. マクドナルド 
2. Chipotle 	2. ミスタードーナツ 
3. Panera Bread 	3. モスバーガー 
4. Papa John's 	4. KFC 
5. ピザハット 	5. サブウェイ 

(Bowerman, 2015)

(Dinh, 2013)

ファーストフードの栄養価

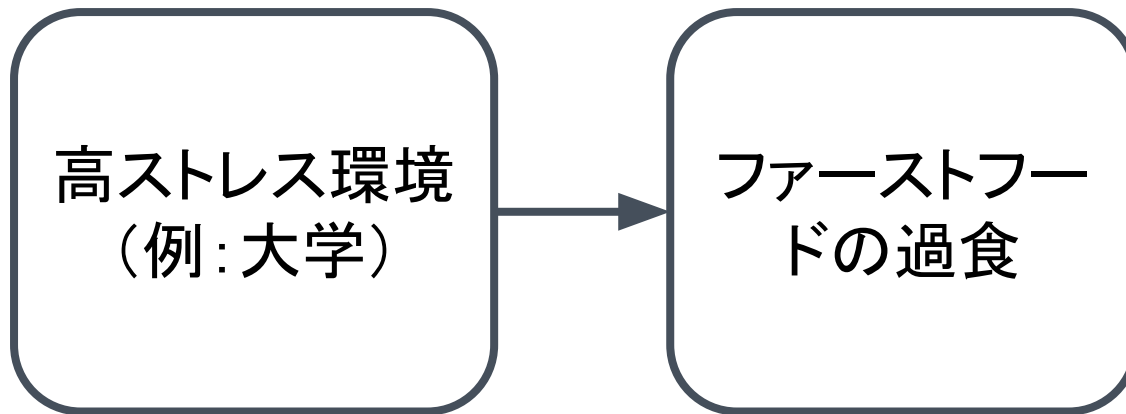
食べ物	アメリカ	日本
マクドナルド: ビッグマック (mcdonalds.com) (mcdonalds.co.jp)	540 エネルギー 28g 脂質 950mg ナトリウム 46g 炭水化物	530 エネルギー 28.2g 脂質 970mg ナトリウム 41.9g 炭水化物
サブウェイ: サブウェイクラブ (subway.com) (subway.co.jp)	310 エネルギー 4.5g 脂質 840mg ナトリウム 46g 炭水化物	295 エネルギー 6.4g 脂質 993mg ナトリウム 41.5g 炭水化物
バーガーキング: ワッパー (bk.com) (burgerkingjapan.co.jp)	630 エネルギー 38g 脂質 810mg ナトリウム 49g 炭水化物	750 エネルギー 48.8g 脂質 884mg ナトリウム 50.1g 炭水化物

アメリカのファーストフードはカロリーや炭水化物が多いが、日本のファーストフードは脂質やナトリウムが多い。

ファーストフードを食べる心理的な要因： ストレス

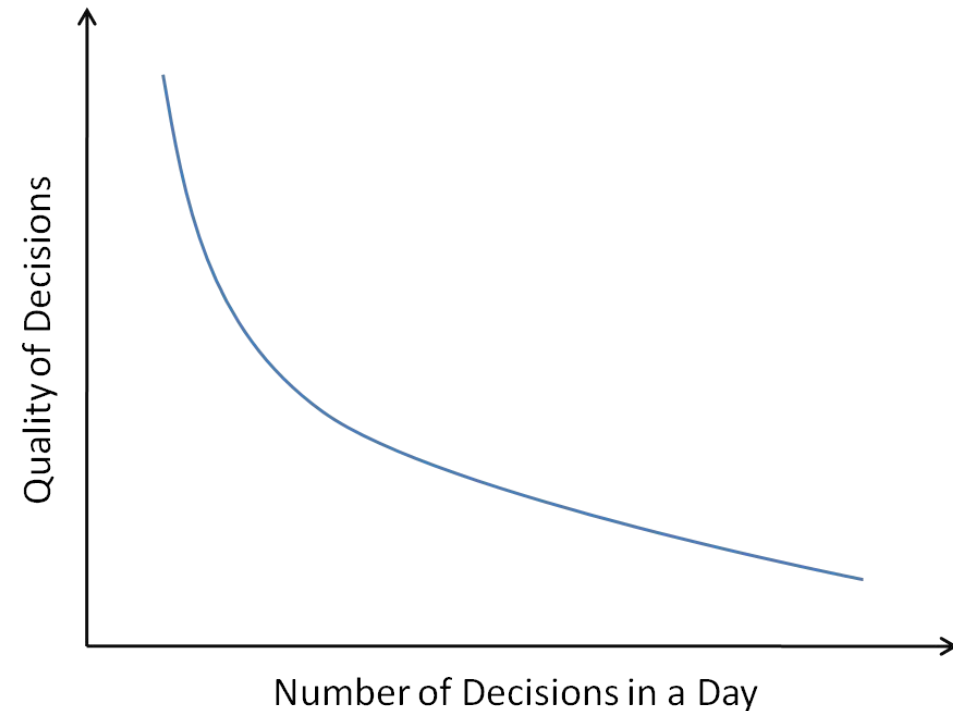
多くの文献によると、ストレスが溜まっている時、カロリーが高く、甘くて、油の多い食品を食べる傾向にあり、それがファーストフードの過食に繋がる

(Lattimore et al., 2004; Sulkowski et al., 2013; Errisuriz et al., 2016)



- ❖ ストレスが溜まると、ファーストフードへの欲求も増える
- ❖ ほとんどのファーストフードへの欲望は油の多い食べ物や甘い食べ物によって引き起こされる (Chao, 2015)

ファーストフードを食べる心理的な要因： 意思決定疲労



消費は多くの心理的要因の影響を受ける

- 意思決定疲労はこれらの要因の一つ。この現象は夜にファーストフードへの食欲が増すことを表している

(Danziger et al., 2011)

メディアと広告

- アメリカも日本もメディアと広告は若い世代をターゲットにしている

(Orciari, 2013; Iwase, 2010)



「マックでDS」の広告



子供が好きなキャラクターを使ったキャンペーンの広告

メディアと広告:

マクドナルド(日本)



- マクドナルドは、特に十代と大学の女性向けに「マックラップ黒酢チキン」を販売した。
 - 「黒酢」は美容にいいと女性に人気
- 蛭原友里が宣伝に器用された
 - 男性客にアピールするだけでなく、多くの若い女性にも完璧という印象が強いため

(Iwase, 2010)



マックラップ黒酢チキン



蛭原友里

メディアと広告:

タコベル(アメリカ)



- タコベルのダイエットに焦点を合わせたキャンペーン
 - ある女性が1週間に5回フレッシュメニューを食べ、54ポンドの減量に成功

(Park, 2010)



クリスティン・ダウエティ「ドライブスルー・ダイエット」広告

メディアと広告:

マクドナルド(日本)



マクドナルド・日本は、特別割引、食べ物、ゲームなどが当たる、子供と十代の若者をターゲットにしたニンテンドーDSを使ったキャンペーンを開始した

(Iwase, 2010)

マックでDS

6/19 スタート

マックに来たら、DSをスイッチオン。
いろんなコンテンツを
ダウンロードして楽しもう!

「マックでDS」の広告

研究方法

アンケートの回答者: 大学生63方

- - 日本人大学生28方
 - - 女子学生19方、男子学生9方
- - アメリカ人大学生35方
 - - 女子学生23方、男子学生10方、その他2方

研究調査:

オンラインによるアンケート(Google Form)

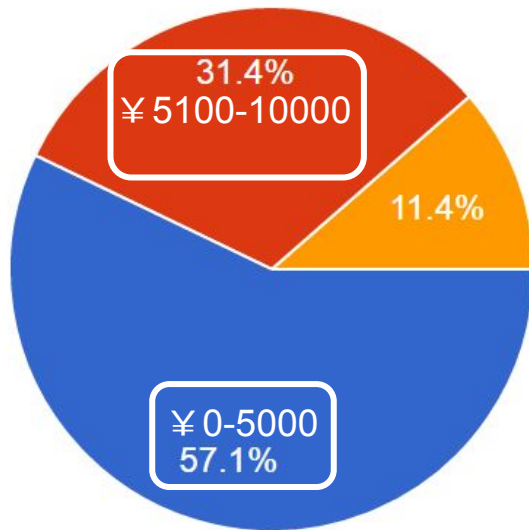
- 日本語によるアンケート、英語によるアンケート

研究質問 1

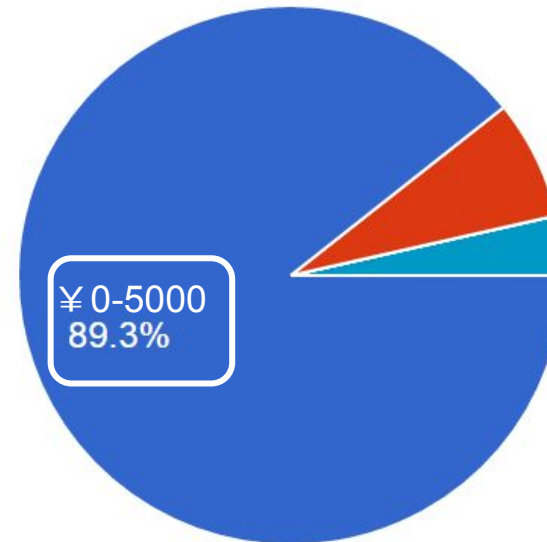
日米の大学生
はどのように
ファーストフー
ドを観ている
のか。

月々ファーストフードのために、どのくらいお金を使いますか。

アメリカ



日本

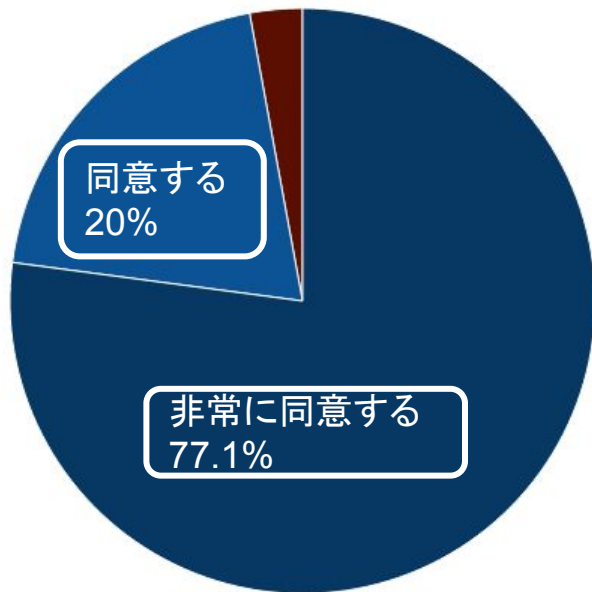


- ¥0-5000
- ¥5100-10000
- ¥10100-15000
- ¥15100-20000
- ¥20000+
- 分からない
- その他

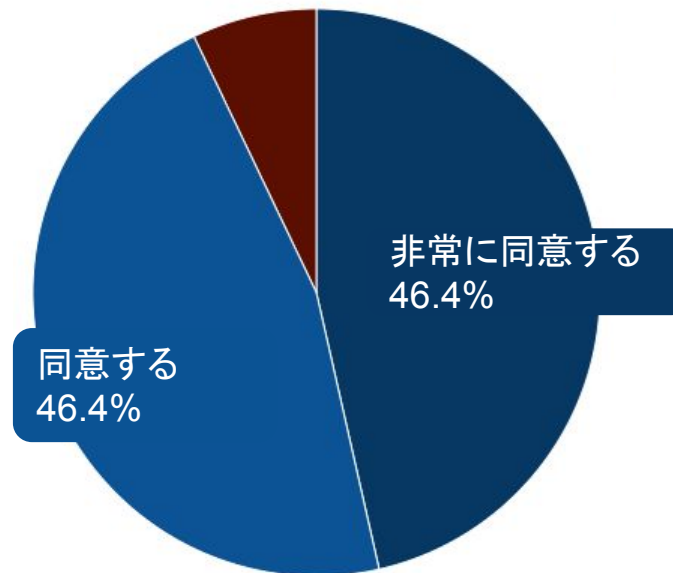
日本の大学生はファーストフードに費やしている金額は一ヶ月5000円以下で、アメリカの大学生は一ヶ月にゼロから一万円までも費やしている。

次の文章をどのように思いますか:「ファーストフードはカロリーが
高く、栄養価はあまりない。」

アメリカ



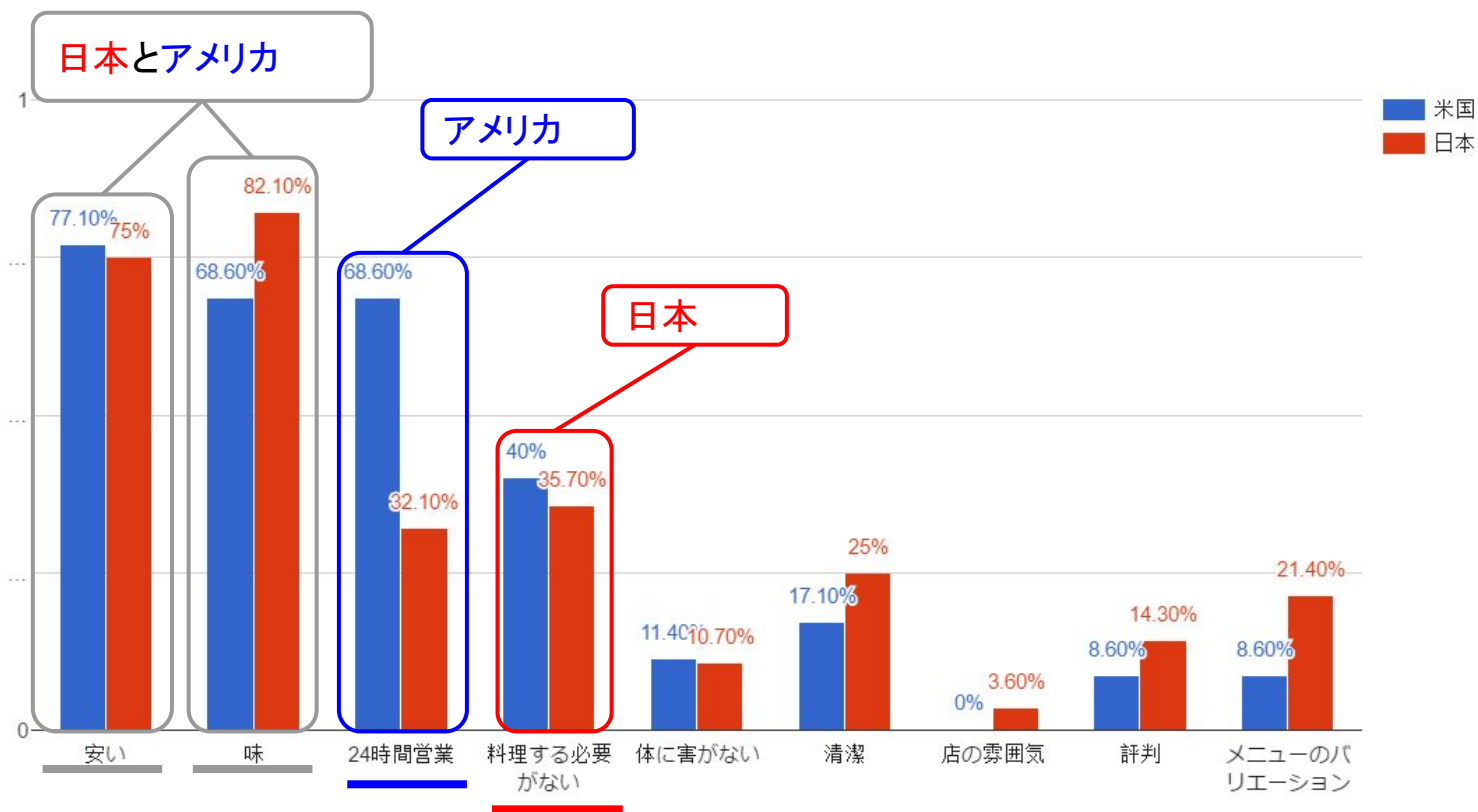
日本



- 非常に同意する
- 同意する
- 同意しない
- 全く同意しない

アメリカと日本の大学生はファーストフードはカロリーが高く、栄養価はあまりないと信じている。

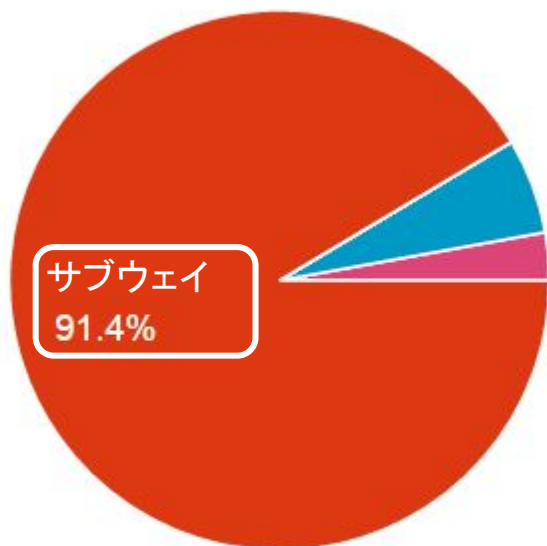
ファーストフードを食べる時に、最も重要なものを三つ選んでください。



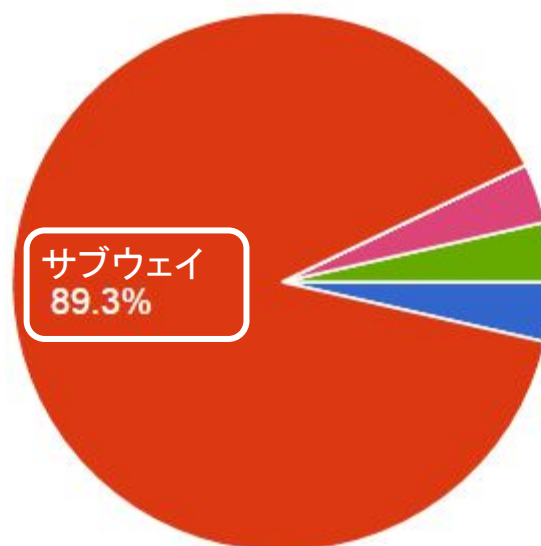
ほとんどのアメリカ人と日本人は、安くておいしいファーストフードが重要だと考えている。しかし、多くのアメリカ人はどこでもいつでもアクセスできる点、また日本人は料理をしなくてもよい点も重要だと思っている。

下記の中で一番健康的だと思うレストランを選んでください。

アメリカ



日本

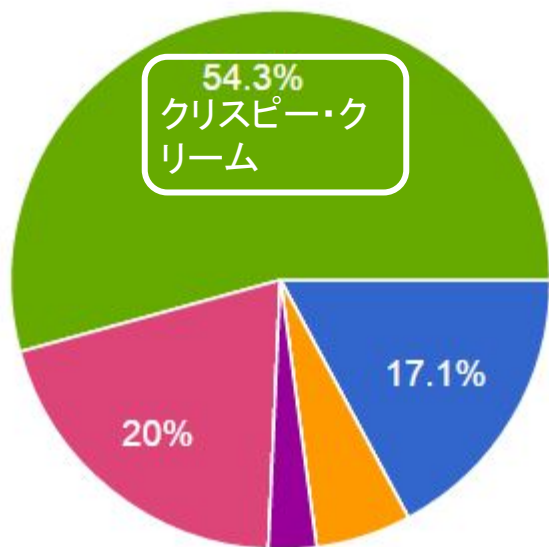


- マクドナルド
- サブウェイ
- ドミノ・ピザ
- バーガーキング
- ピザハット
- ウェンディーズ
- KFC
- クリスピー・クリーム・ドーナツ

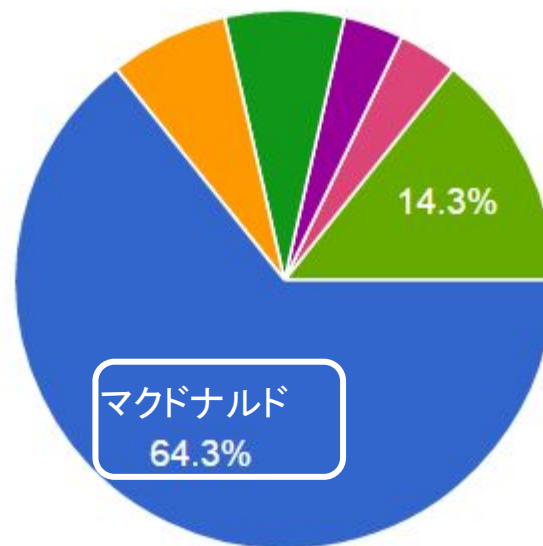
日本人とアメリカ人のほとんど全員がサブウェイを最も健康的なファーストフードレストランだと感じている。

下記の中で一番健康的でないと思うレストランを選んでください。

アメリカ



日本

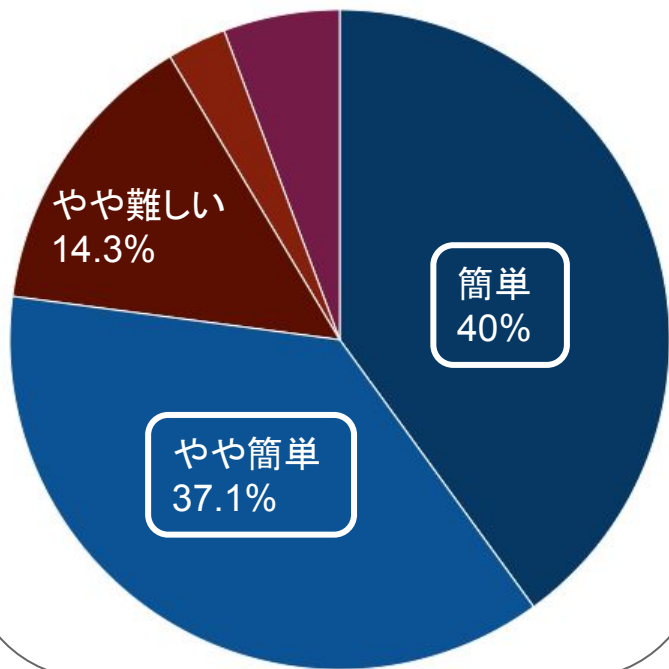


- マクドナルド
- サブウェイ
- ドミノ・ピザ
- バーガーキング
- ピザハット
- ウェンディーズ
- KFC
- クリスピー・クリーム・ドーナツ

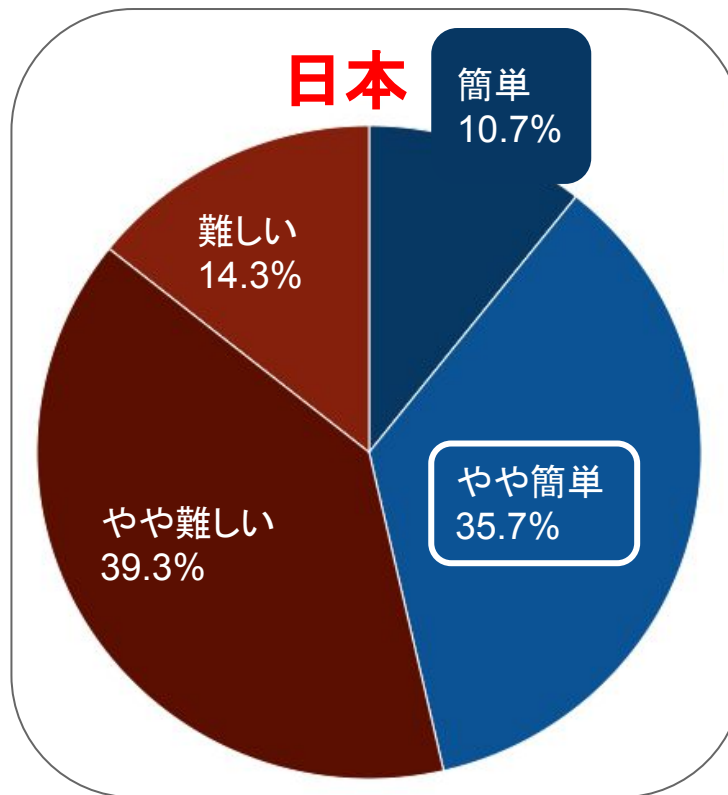
アメリカの大学生の54.3%はクリスピークリームが最も不健康であると考えている。しかし、日本人の大学生の64.3%はマクドナルドが最も不健康であると考えている。

食べ物のカロリーの情報を見つけることはどれくらい簡単ですか。

アメリカ



日本

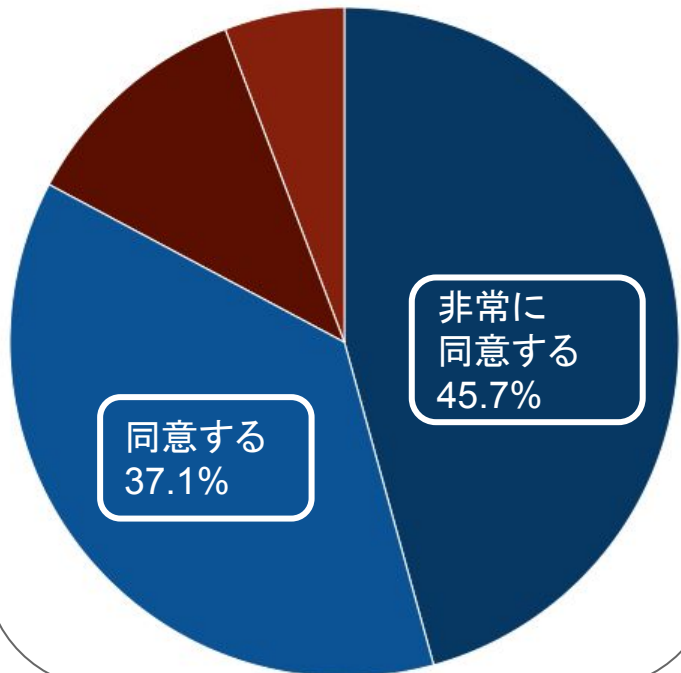


- 簡単
- やや簡単
- やや難しい
- 難しい
- 決して見つけられない

アメリカの大学生の77.1%はカロリー情報を見つけるのは簡単だと考えている。一方、日本人の大学生の答えは半数以下だった。

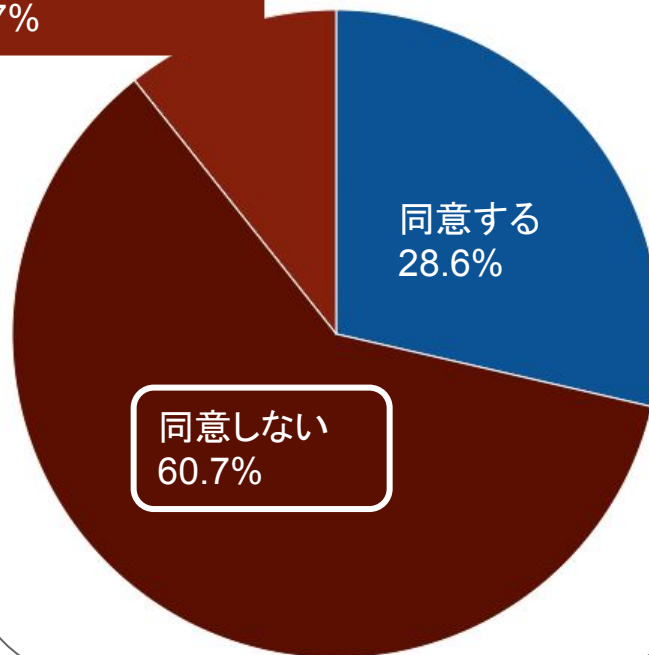
次の文章をどのように思いますか:「ファーストフードのレストランの広告は大学生を対象としたものだと思う。」

アメリカ



日本

全く同意しない
10.7%



- 非常に同意する
- 同意する
- 同意しない
- 全く同意しない

アメリカの大学生の大多数は、広告が大学生を対象としていると思っているが、日本の大学生は、そう思っていない。

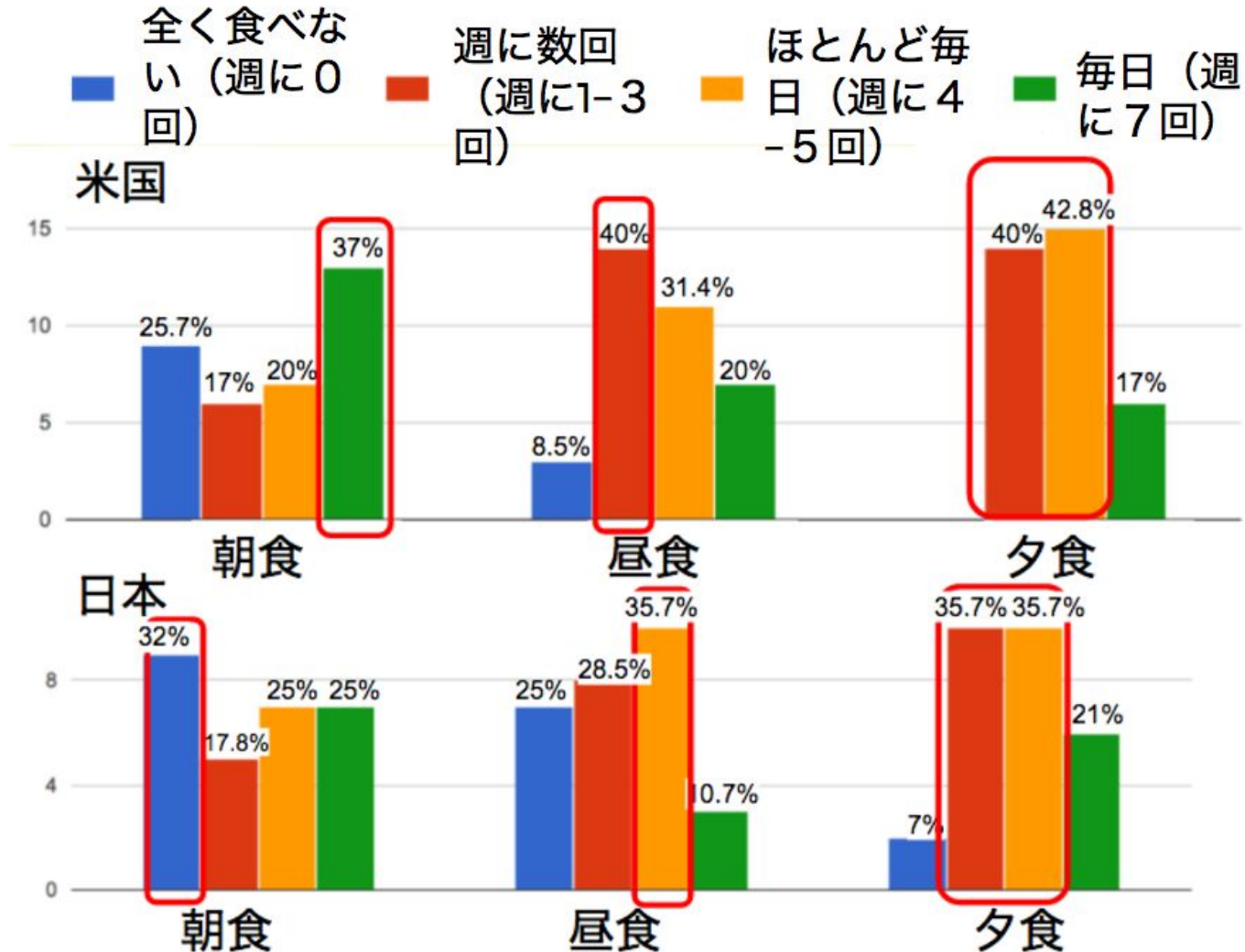
研究質問1のまとめ

1. アメリカ人と日本人の学生共に、ファーストフードは健康的でないと思っている。カロリー情報はアメリカの方がより簡単に見つかることがわかった。
2. アメリカ人の大学生は、日本人の大学生よりファーストフードに多くの支出をする。日本の大学生は広告が大学生をターゲットにしていなと思っているが、アメリカの大学生は強くそう思っている。
3. それぞれのグループにはファーストフードが不健康な食べ物と言う考え方があがるが、サブウェイはどちらのグループにも最も健康だと思われる。これはサンドイッチを作るのに使われる野菜の量が多いためかもしれない。

研究質問 2

ファーストフードは日米の大学生の食生活とダイエットにどのように影響しているか。

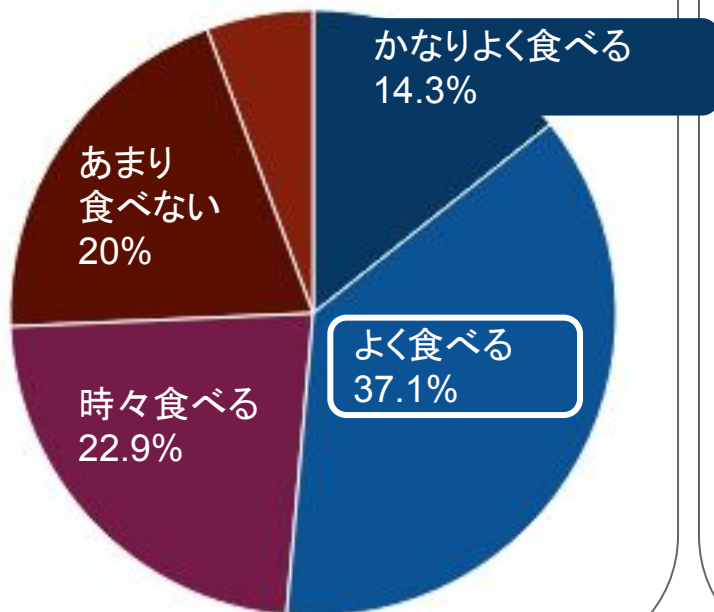
一週間にどのくらい家で御飯を作って食べますか。



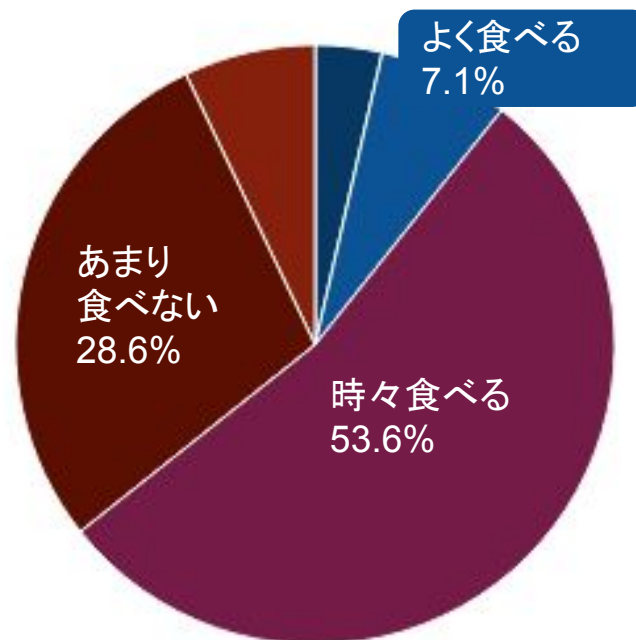
日米の大学生は家で頻繁に料理するが、アメリカの大学生は日本の大学生よりも家で朝食を食べる。

どのくらいの頻度でファーストフードを食べますか。

アメリカ



日本

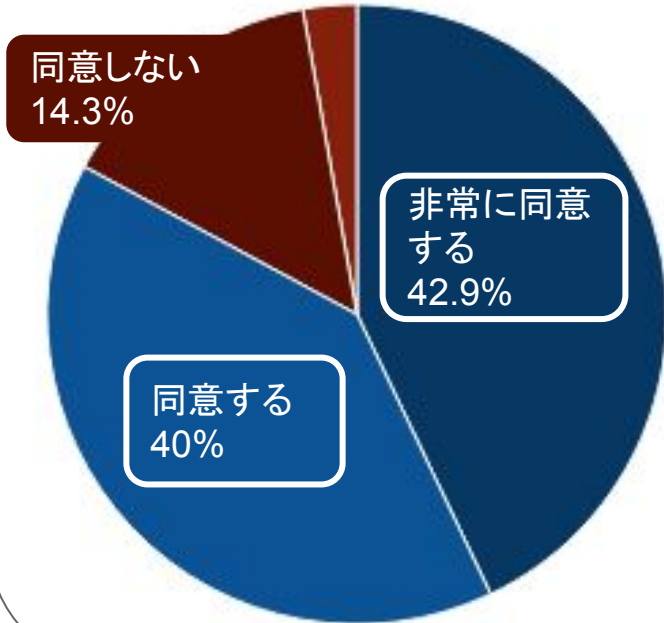


- かなりよく食べる
- よく食べる
- 時々食べる
- あまり食べない
- ほとんど食べない

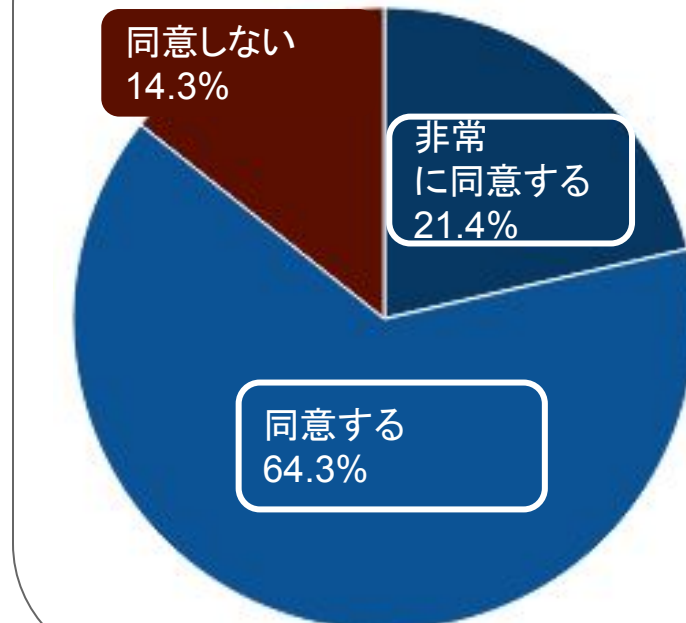
アメリカの大学生は日本の大学生に比べてより頻繁にファーストフードを食べる。

次の文章をどのように思いますか:「ファーストフードは私の身体の形や外見に影響を与える。」

アメリカ



日本

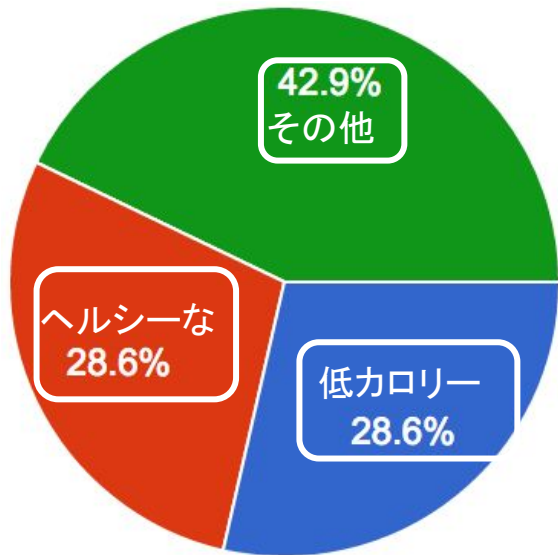


- 非常に同意する
- 同意する
- 同意しない
- 全く同意しない

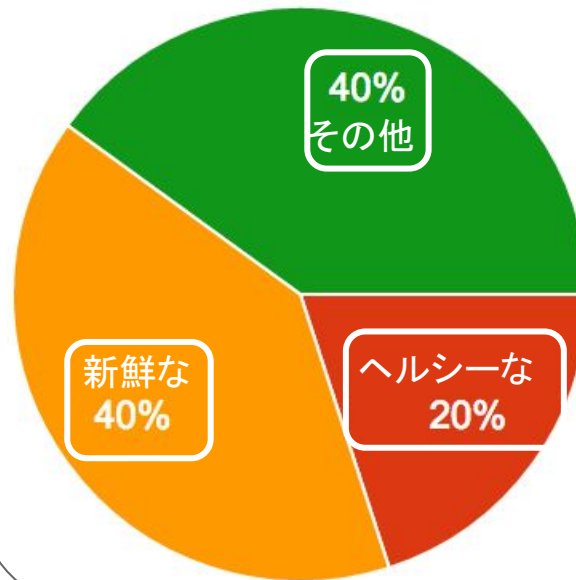
日米の大学生は身体のイメージはダイエットに影響を受けると考えるが、アメリカの大学生はこのことに対しより強く感じている。

前の質問で、「同意しない」「全く同意しない」を選 択した人は、なぜそう思いましたか。

アメリカ



日本



- ファーストフードのレストランは低カロリー食べ物も提供している
- ファーストフードのレストランはヘルシーな食べ物も提供している
- ファーストフードのレストランは新鮮な食べ物も提供している
- その他

何人かのアメリカの大学生はファーストフードのレストランは低カロリーでヘルシーな食べ物も提供し、日本の大学生は新鮮でヘルシーな食べ物もあると答えた。

前の質問で、「同意しない」「全く同意しない」を選択した人は、なぜそう思いましたか。(続き)

アメリカ

“食べる節度を守れば影響しないと思うから”

“いくら食べても太らない体質だから”

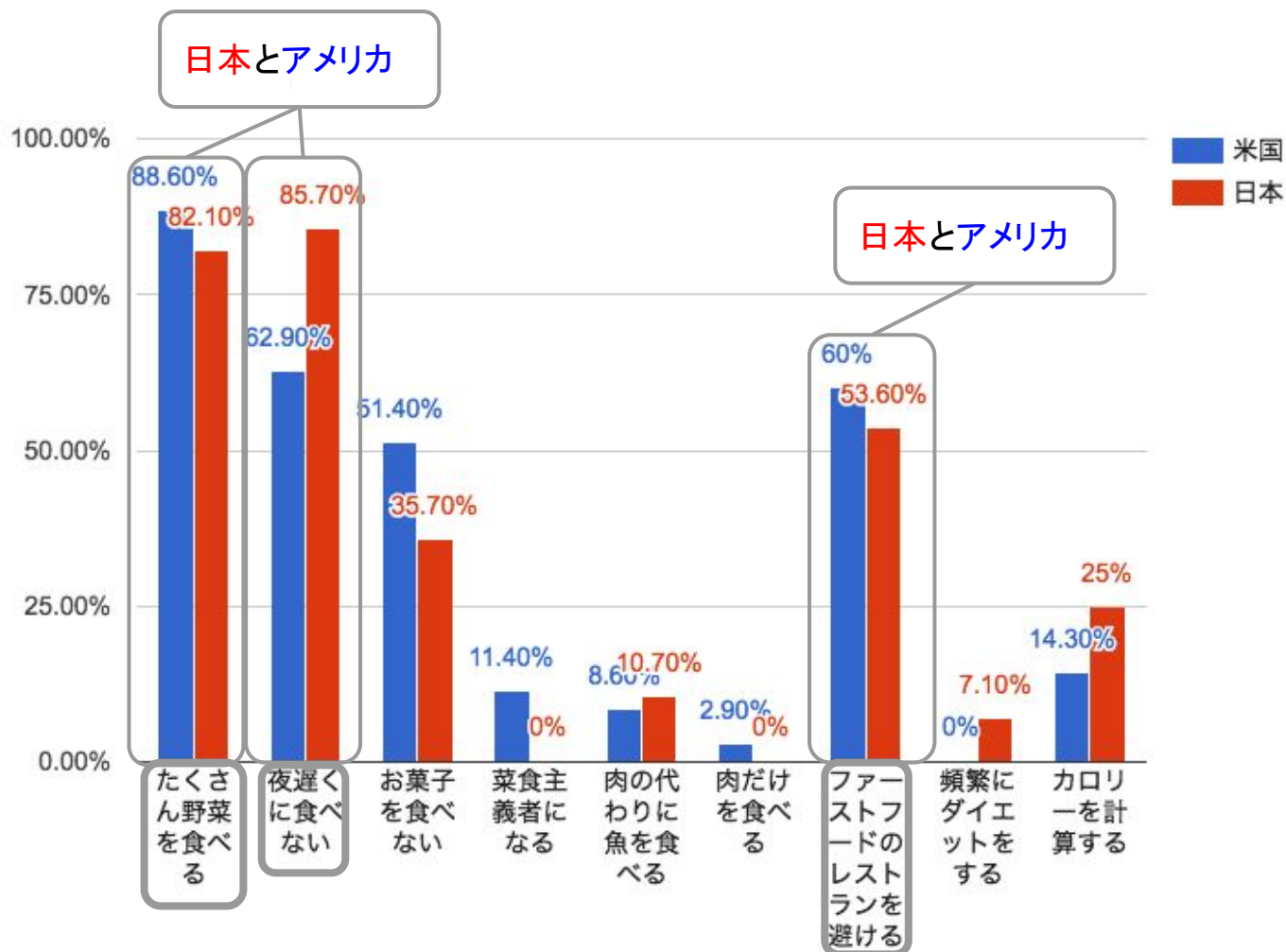
日本

“他の食事で気をつけている”

“食べる節度を守れば影響しないと思うから”

日米の大学生はファーストフードを食べる節度を守れば外見に影響しないと思っている。

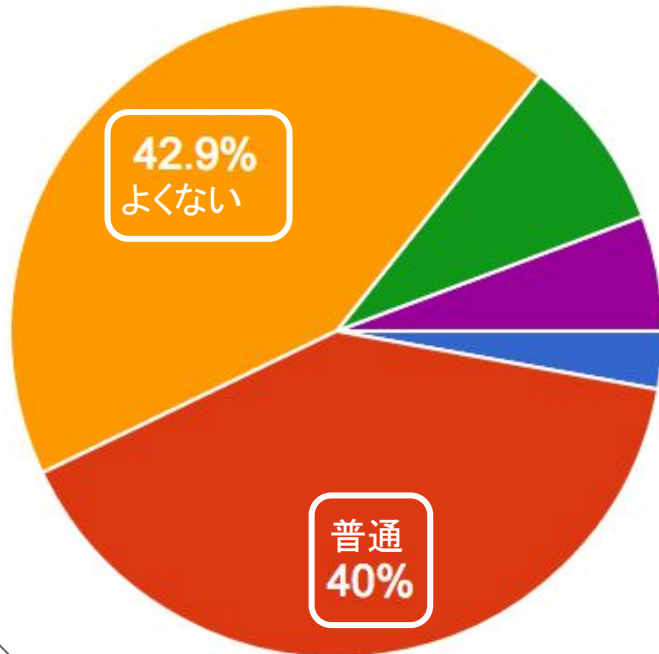
健康的な食生活とはどのような事だと思えますか。



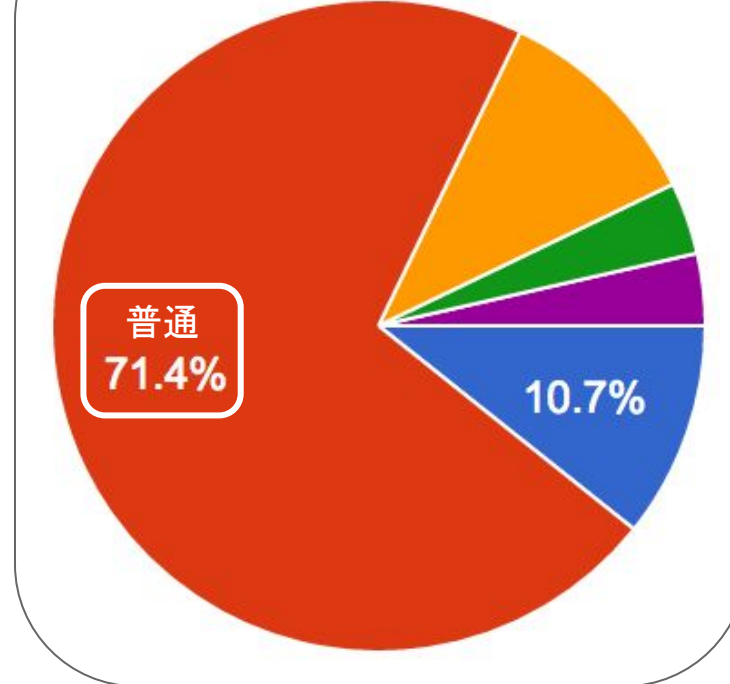
両国の学生は、「たくさん野菜を食べる」、「夜遅くに食べない」、「ファーストフードのレストランを避ける」ことを、健康を意識した方法だと考えている。

ファーストフードを食べた後の、気分はどうですか。

アメリカ



日本

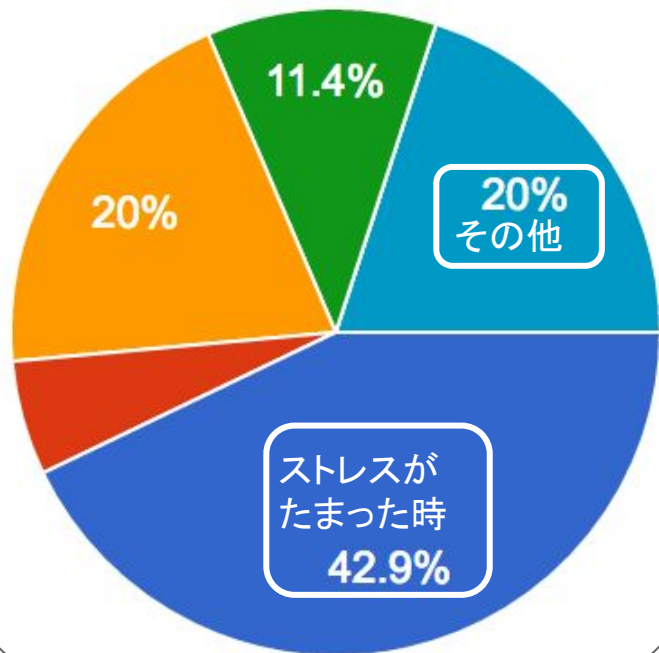


- 良い
- 普通
- よくない
- 気分が悪くなる
- 分からない

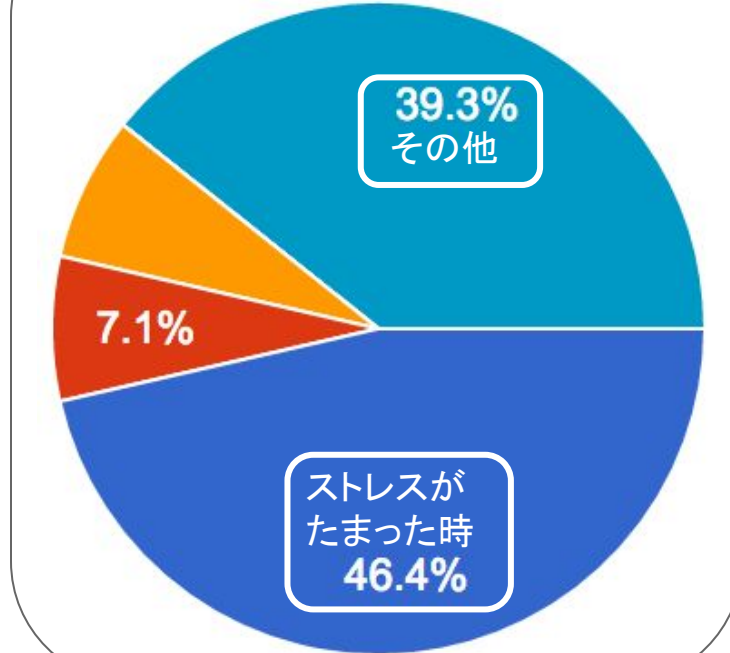
アメリカの大学生の方が、日本の大学生よりも気分が悪くなると感じる。

下記の中で最もファーストフードを食べたいと感じる時はどれですか。

アメリカ



日本



- ストレスがたまった時
- 嬉しい時
- 自分自身に対するごほうび
- 落ち込んでいる時
- 寂しい時
- その他

日米の大学生共にストレスが溜まった時ファーストフードを食べたいと感じる。

下記の中で最もファーストフードを食べたいと感じる時はどれですか。(続き)

アメリカ

“料理したくない時”
“気分が悪くて料理できない時”

“何もしたくない時”
“疲れた時”

日本

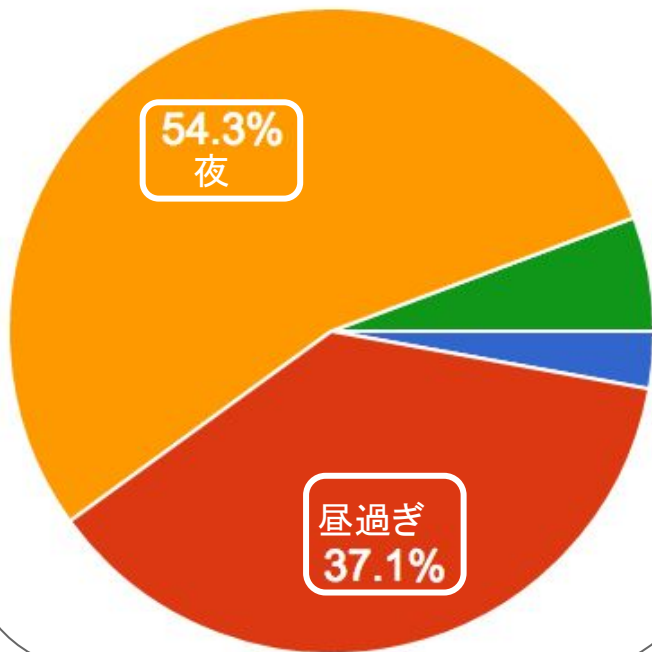
“時間がないとき”
“外出中にすぐに食事を済ませたい時”

“お腹がとても減っているとき”

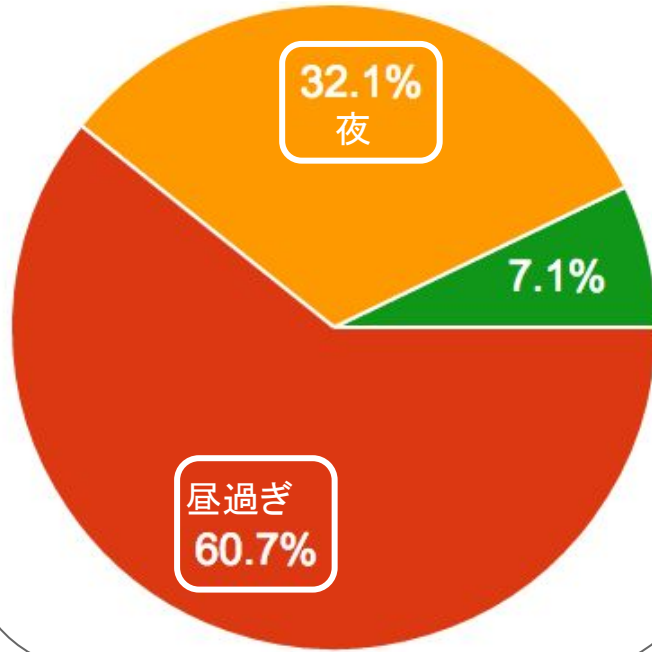
日本の大学生には時間と便利さが大切で、アメリカの大学生は自分で料理をしたくないという理由が多かった。

一日の中で最もファーストフードを食べたいと感じる時間はいつですか。

アメリカ



日本

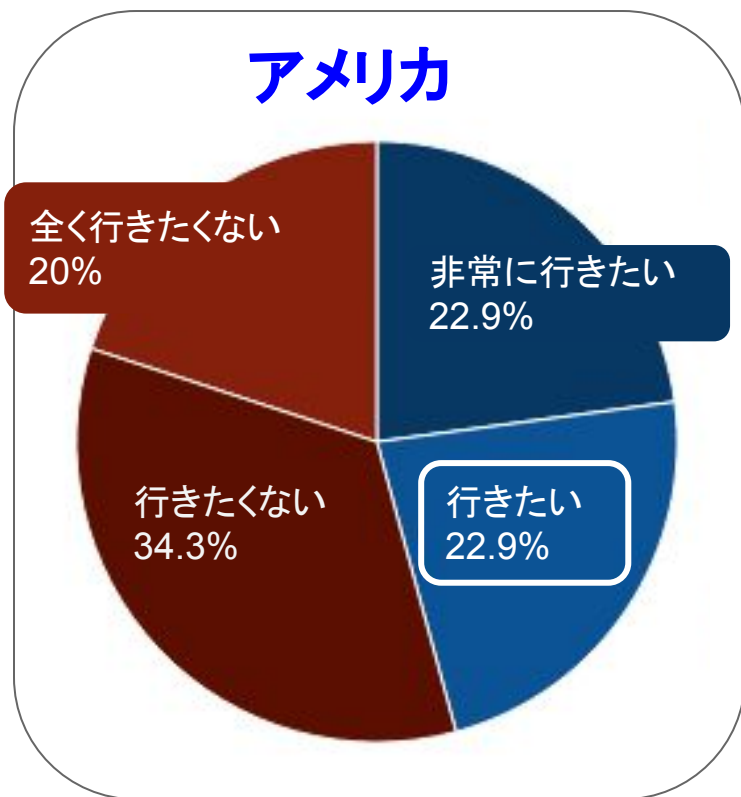


- 朝
- 昼過ぎ
- 夜
- 真夜中

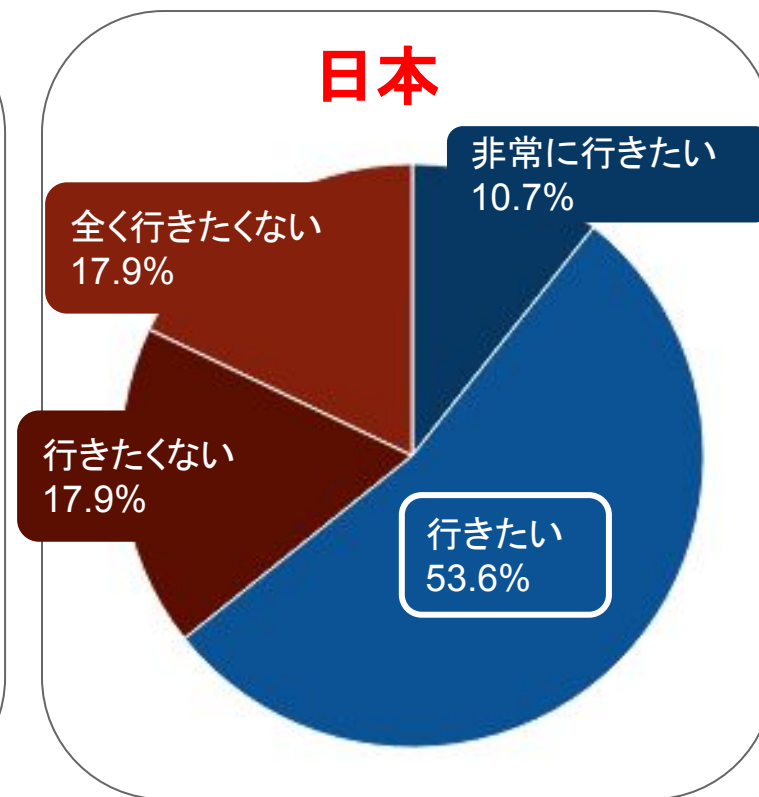
アメリカの大学生は夜間にファーストフードを食べる傾向があり、日本の大学生は午後に食べる可能性が高い。

上記のファーストフードのレストランよりも値段は50%高いが、美味しく健康に良いレストランに行きたいと思いませんか。

アメリカ



日本



- 非常にいきたい
- いきたい
- 行きたくない
- 全く行きたくない

日本の大学生はアメリカの大学生よりも「値段は高いが健康的なファーストフード」を選んだ。

研究質問2のまとめ

1. 日米の学生は、ファーストフードが食生活が体のイメージに影響を与えていると思っている。
 - a. アメリカの大学生はファーストフードが自分の体に、より影響を与えると信じているが、食べた後に気分が悪いと感じるにも関わらずファーストフードを食べ続ける。
2. 日米の大学生の健康に対するアイディアは似ているが、ファーストフードが体に及ぼす影響を軽減するために、節制が最も重要だと考えている。
3. 両国の大学生共にストレスはファーストフードを食べる主な動機である。

結論

1. アメリカの大学生はファーストフードをより頻繁に食べ、日米の大学生はファーストフードから不健康な影響を感じているということがわかった。その悪影響にもかかわらず大学生はファーストフードを食べ続けるが、その理由はおそらくストレスが原因。
2. 日本の大学生はアメリカの大学生より、健康的なファーストフードに高い金額を払う傾向にあるが、日本の大学生にもアメリカの大学生にもファーストフードを選ぶ時に価格が重要な要素になる。
3. アメリカも日本も健康の概念は似ているが、不健康の概念は極めて異なり、アメリカでは「砂糖の量の多さ」、日本では「野菜が使われる量の少なさ」。

研究の限界点と将来の研究

限界点:

- 回答者の数が少ない、主に女性
- 日本人の回答者よりアメリカ人の回答者が多い
 - 結果を一般化する事は難しい

将来の研究:

- 体に影響するファーストフードのより詳細な研究
- 不健康な食品に対する見解の違い
 - 何が「健康・不健康」かに対する質問する
- 男女の回答者数を均等にする

参考文献

- Almerico, G. M. (2014). Food and identity: Food studies, cultural, and personal identity. *Journal of International Business and Cultural Studies*, 8.
- Asakawa, M., & Okano, M. (2013). Japanese consumer's food selection criteria and gender-based differences. *Behaviormetrika*, 40(1), 41-55. doi:<http://dx.doi.org/10.2333/bhmk.40.41>
- Blichfeldt, B.S. & Gram, M. *High Educ* (2013) 65: 277. doi:10.1007/s10734-012-9543-2
- Bowerman, M. (2015, July 01). What's America's favorite fast-food restaurant?
- Crago, S. (2015, October 23). Born in the USA, eaten in Okinawa. Retrieved April 25, 2017, from <http://www.japantimes.co.jp/life/2015/10/23/food/born-u-s-eaten-okinawa/#.WP-x1VPyuRs>
- Danziger, S., Levav, J., & Avnaim-Pesso, L. (2011). Extraneous factors in judicial decisions. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 108(17), 6889-6892. doi:10.1073/pnas.1018033108
- Dinh, M. L. (2013, September 14). The top 8 fast food chains in Japan. Retrieved April 25, 2017, from <http://en.rocketnews24.com/2013/09/15/the-top-8-fast-food-chains-in-japan/>
- Errisuriz, V. L., Pasch, K. E., & Perry, C. L. (2016). Perceived stress and dietary choices: The moderating role of stress management. *Eating Behaviors*, 22, 211-216. doi:10.1016/j.eatbeh.2016.06.008
- Fast-food. (n.d.). Retrieved April 6, 2017, from <https://www.merriam-webster.com/dictionary/fast-food>
- Fukuba, H. (1992). Food policy for health in japan. *Nutrition and Health*, 8(2-3), 177-190. Retrieved from <http://search.proquest.com/docview/61340809?accountid=10355>
- Glanz, K., Basil, M., Maibach, E., Goldberg, J., & Snyder, D. (1998). Why Americans Eat What They Do: Taste, Nutrition, Cost, Convenience, and Weight Control Concerns as Influences on Food Consumption. *Journal of the American Dietetic Association*, 98, 1118. doi:[http://doi.org/10.1016/S0002-8223\(98\)00260-0](http://doi.org/10.1016/S0002-8223(98)00260-0)
- Iwase, M. (2010). New literacies, japanese youth, & global fast food culture: Exploring critical youth agencies (Order No. MS23632). Available from ProQuest Dissertations & Theses Global: The Humanities and Social Sciences Collection. (1516586391). Retrieved from <https://search.proquest.com.library2.csumb.edu:2248/docview/1516586391?accountid=10355>

- Japan - average fast food consumption per week (2016). Retrieved April 05, 2017, from <https://www.statista.com/statistics/561277/japan-average-fast-food-consumption-per-week/>
- Jussaume, Raymond A. Jr, & Higgins, L. (1998). Attitudes towards food safety and the environment: A comparison of consumers in japan and the U.S. *Rural Sociology*,63(3), 394-411. Retrieved from <http://search.proquest.com/docview/60062327?accountid=10355>
- Lattimore, P., & Maxwell, L. (2004). Cognitive load, stress, and disinhibited eating. *Eating Behaviors*, 5(4), 315-324. doi:10.1016/j.eatbeh.2004.04.009
- McDonalds targets families with in-store only Nintendo DS service. (2009, June 15). Retrieved May 03, 2017, from <https://japantoday.com/category/tech/mcdonalds-targets-families-with-introduction-of-in-store-only-nintendo-ds-service>
- Orciari, M. (2013, November 4). Fast Food Companies Still Target Kids with Marketing for Unhealthy Products. *YaleNews*. Retrieved April 25, 2017, from <https://news.yale.edu/2013/11/04/fast-food-companies-still-target-kids-marketing-unhealthy-products>
- Our History. (n.d.). Retrieved January 23, 2017, from http://www.awrootbeer.com/aw_history.php
- Palmer, M. (n.d.). Case Study: A Tale of Two Doughnuts, MNC Success is Being Both Global and Local. Retrieved from leeds-faculty.colorado.edu/palmerm/A%20Tale%20of%20Two%20Donuts.doc

- Rappoport, L. (2003) How we eat: Appetite, culture, and the psychology of food. ECW Press, Toronto.
- Schlosser, E. (2001). Fast food nation: the dark side of the all-American meal. Waterville, Me.: G.K. Hall.
- Skrabec, Q. R. (2012). The 100 most significant events in American business: an encyclopedia. Santa Barbara, Calif: Greenwood.
- Sulkowski, M., Dempsey, J., & Dempsey, A. (2013). Corrigendum to 'Effects of stress and coping on binge eating in female college students' [Eat. Behav. 12 (2011) 188–191]. Eating Behaviors, 14(3), 410.
doi:10.1016/j.eatbeh.2013.03.001
- Traphagan, J. W., & Brown, L. K. (2002). Fast food and intergenerational commensality in Japan: New styles and old patterns. Ethnology, 41(2), 119-134. Retrieved from
<http://search.proquest.com/docview/60084446?accountid=10355>
- Vol.2 KFC Japan(1/3) | Mitsubishi Corporation. (n.d.). Retrieved February 23, 2017, from
<http://www.mitsubishicorp.com/jp/en/mclibrary/projectstory/vol02/>
- Yoshinoya History. (n.d.). Retrieved February 23, 2017, from <http://www.yoshinoyaamerica.com/history.php>
- 沿革 | 会社情報 | McDonald's Japan. (n.d.). Retrieved April 25, 2017, from
<http://www.mcdonalds.co.jp/company/outline/enkaku.html>
- (2013, August 06). Fast Food Still Major Part of U.S. Diet. Retrieved April 05, 2017, from
<http://www.gallup.com/poll/163868/fast-food-major-part-diet.aspx>
- (n.d.). Retrieved April 25, 2017, from <http://maxsielaff.de/>

謝辞

- 齋藤先生
- 関根先生
- ガス・レナード
- キャップストーンと同級生
- 家族